

岡山プログラム小委員会報告

2011年岡山ユーザーズミーティング

2011年8月9日

橋本 修（ぐんま天文台）

柳澤 顕史（岡山天体物理観測所）

2010年度 岡山プログラム小委員会

- 木下大輔 National Central University, Taiwan (2007 – 2010)
- 西浦慎吾 東京学芸大学 (2007 – 2010)
- 山下卓也 国立天文台 (2007 – 2010)
- 川端弘治 広島大学 - 委員長 - (2009 – 2012)
- 杉谷光司 名古屋市立大学 (2009 – 2012)
- 野上大作 京都大学 (2009 – 2012)
- 橋本 修 ぐんま天文台 (2009 – 2012)
- 岩田 生 国立天文台 - 幹事 - (2009 – 2010)

2010年度末までの委員

2011年度 岡山プログラム小委員会

- 川端弘治 広島大学 (2009 – 2012)
- 杉谷光司 名古屋市立大学 (2009 – 2012)
- 野上大作 京都大学 (2009 – 2012)
- 橋本 修 ぐんま天文台 - 委員長 - (2009 – 2012)
- 伊藤信成 三重大学 (2011 – 2014)
- 関口朋彦 北海道教育大学 (2011 – 2014)
- 深川美里 大阪大学 (2011 – 2014)
- 柳澤 顕史 岡山天体物理観測所 - 幹事 - (2011 –)

2011年より、委員3名と幹事が交替 新委員

この一年間の活動状況

- 2010年10月5日 2011年前期プログラム・プロポーザル公募締切
- 2010年11月15日 プログラム小委員会 採択プログラム決定
場所、時間： 岡山コンベンションセンター 9:00-16:00
参加者： 川端(委員長)、木下、西浦、杉谷、野上、橋本、岩田
(Ex.Officio: 泉浦、柳澤)
- 2011年4月12日 2011年後期プログラム・プロポーザル公募締切
- 2011年6月3日 プログラム小委員会 採択プログラム決定
場所、時間： 東京国際フォーラム 11:00-17:30
参加者： 橋本(委員長)、川端、杉谷、野上、伊藤、関口、深川、柳澤
(Ex.Officio: 泉浦、神戸)

2010年11月 プログラム小委員会 主な議事

- プログラムの審査

プロジェクト観測 40夜申請中40夜割り当て

学位支援(新規1件) 不採択

一般 13件(98.5夜+20昼)申請中 11件(77夜+ <20昼) 採択

- 学位支援プログラム

レフェリー評価が基本

既存のデータに加え、追加観測が不可欠であることの説得力
支援プログラム制度での応募を discourage しない

学位支援プログラムに対する宿題(see 川端 2010 UM)

- 課題間での観測時間調整 (cf. 2010 UM)

UM 明るい天体に不利益、手間がかかる、調整が困難、責任の所在
主に系外惑星探査

実行中、概ね良好、予め時間を決めて観測
似た装置設定、研究者の重複

- HIDES ファイバー化への期待

ユーザーの意見を乞う

学位論文支援プログラム

- ・ 修士課程・博士課程の学生を対象 審査は一般枠と同様(面接無し)
- ・ 最大～10日×4期(2年間)と割り当てを拡大 →良い成果を期待
- ・ ユーザーズミーティングでの中間発表、成果発表が義務
- ・ 学生からの応募は2期連続無し(一方で一般枠への継続応募は依然多い)
- ・ これまでに2件採択 いずれも修士論文を目標としたもの
- ・ 優れた研究者の養成を目指すなら博士課程のみ対象にする案もあり得る

⇒ 位置づけ(目的)の微調整が必要か？ ニーズは？ 改善すべき点は？

高い競争倍率と割り当て夜数減、同一夜の重複割り当て

- ・ 夜数ベースの競争倍率は2倍(一般枠だけでみると2.5倍) なかなか厳しい
- ・ ボーダー付近は、希望夜数を削って、なるべく多くの課題を割り当てる傾向
- ・ 最近は、補充的な観測や、時期を限った、夜数が短めの課題の申請も多い
- ・ 観測ランが短いと、天候の関係でデータが全く取れないケースが目立つ
- ・ なるべく長い期間、複数課題を重複で割り当てるのが解決策として有効
- ・ ただし、晩ごとに観測時間を研究者間で協議してもらわないといけない

⇒ 採択課題数を減らして一課題当りの夜数を確保すべきか、それとも一課題当りの夜数を減らして採択課題を多くし、複数課題の重複割り当てを増やすべきか

2011年6月 プログラム小委員会 主な議事 (1)

- プログラムの審査

プロジェクト観測	40夜申請中40夜割り当て	
学位支援	申請 0件	
一般	18件(179夜+14昼)申請中	11件(75夜*+ 7昼) 採択
		*内14夜は2課題で分割

- PI匿名制について (あるレフェリーからの意見1)

フィージビリティの判断をしにくくなる

申請者保護の立場 申請者に都合のよい制度

一方、PI名の公開はレフェリーに都合のよい制度 ⇒ 一長一短

PI匿名制の前後で、論文生産率は減っていない

廃止するのであれば、総括が必要

- 視線速度サーベイについて (あるレフェリーからの意見2)

系外惑星の視線速度サーベイが多い 成果までの時間、他分野の圧迫
観測所時間を合わせて、例えば70夜程度を観測所プロジェクトにしては

研究グループが匿名のため、レフェリーには懸念が発生しがち
プログラム小委員会が吟味し、常識的な選択を実施している

2011年6月 プログラム小委員会 主な議事 (2)

- 研究カテゴリー

系外惑星関連のカテゴリー EXOPLANETS を 2011A より新設
今回該当9件(約半数)であるが、STAR, OTHERなどで申請している

- レフェリーコメントの開示

レフェリーのコメント集をレフェリーに送付している
開示を好まないレフェリーに配慮する必要があるのではないか

レフェリーの匿名性は保証されており、コメント主を特定できない
これまでに、そのような苦情の申し立てはでていない

⇒ 開示を継続

- 大学間連携キャンペーン観測

2011年春から始まる 2011Bは観測所のサイエンス時間から割り当て
今後共同利用時間の一部を供出できるか？

大学連携コアグループ 独自に課題の募集と選別する案が出ている
特別枠を設けるにしても、成果を出すための科学的なスクリーニングが必要

プロポーザルの内訳

2011年	前期			後期		
	N	P	S	N	P	S
Solar system	2			2		
Stars	7	1	1	8	1	
Star formation	1			2		
Interstellar	0			1		
Galactic	0			0		
Extragalactic	2			2		
Other	1			3		
HIDES	7	1	1	9	1	
ISLE	4			6		
KOOLS	1			2		
HBS	1			0		

2011年6月 プログラム小委員会 補足 (メモ)

- 観測期間
一般であっても、必ずしも単一セメスターで閉じる必要はない
長期にわたる場合はプロジェクト観測枠
- 日中の観測
日の出から、午前中のみ (夜間観測への対応)
- 夜間観測のシェア
一方が、特定の天体に対するキャンペーン観測
それぞれの観測時刻を指定した
- プロポーザルの記述
研究分野の異なるレフェリー、委員にも理解できるような記述